

5  
1809  
巻

5  
1809



序

詩の詩仙のあま歌の歌仙の歌  
のの儂ちまらんとや仙とままらんと  
すまらんと心風録の海もまらんと  
滑稽の如くあらんとまらんと  
法橋吾山のハ武地越出乃産  
とはやうより柳居海の示教は俳諧の





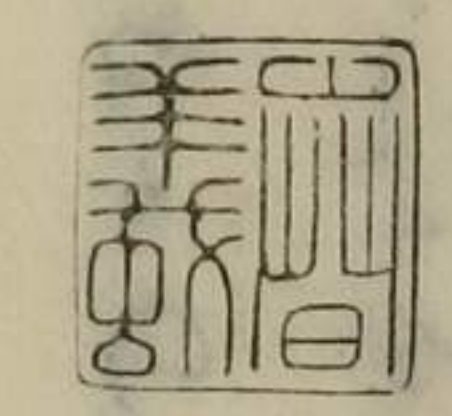


序はる事のいりやきしと序漆終の  
故ありてこゝにいつのまゝをたるとは集乃始  
りそのまゝに張るゝといふ

東都臨海樓主人

井上春蟻撰

と明ハ  
申す



名留め茶古  
黄泉茶古  
向秀手紙  
名留め茶古



澁橋

吾山

肖像



龍鳳

元照後六吟

辞世

兼とんし雪ハ

まのりをこゝろはな

清く名のよけ火桶化しき

平仄ハ詠の事よと詩を後しを

多し〜意〜松〜

古

吾山

春儀

菜陽

貫四



河やかくに草子屋の廊の西日信 里曉  
 急しぬぬして聲を尋る 山帯  
 法江の整ふ似合ぬおしゆる 東羽  
 盟の氷はくしとうらめく 以一  
 おもとく軒の千葉のを阿そく 圭督  
 川も目し牛馬の羽形 牙琴  
 空ん日とつしはるは 神指 紀関  
 並木ゆわれはるはうらむ 九包

舟の聖相獲太鼓の松子よき 来義  
 海へて名はハ柿き小玉銀 佳夕  
 川流る馬のひくと尿ふく 條風  
 玄界ていりくたる廣に這入口 都友  
 一寸もおまも袴く 吾十  
 是ハく聖元来途の舞のを 朱翁  
 笙歌をばうり 種もゆ衣を 立和







吾山法橋一巻くはたよりの光

とせのまも化や霜柱 其阿上人

西井蒼と周追福

のちもろや枯しあすの竹のを 采翁子

よきしゆり罪法州の市路や 都雲子

清しれい入わくもろを梅 和橋子

追悼

まの雪や庭も清く一ぬりひ 世音

恨のくくろはるを嘆かぬふ 仙丈

一免らう薫りけいしを梅 柳宇

おと免やうしを寒言佛 寒光

色のはなぬちくゆり塚のを 風雀

思ひぬれ雪のらりけ聖橋 醉月

外の威を清くさきや友雀 古月

あしや新足ゆりあまのまお 梅子

吾山叟の巻より一と此の巻に  
さしあし一周の集作とすはこれ

ゆり子のそとへ何と師走の夜

女  
花光

共しおの辞世の夕陽再吟して

仙溪亭

堀り雪やむしれ志の心象

嘉菊

是もたのこ馴し鈴や桐火桶

嵩雪

あま流も名ハ聲し入る玉櫛

菊児

一圓志のいとちみりり家

吾山七人の堀り後をこく

洛半花坊

久しき日や雪の梅し袖ぬる

蘭更

吾山七人の追悼を燈とたりし

夕陽よりれ古歌あはしひりぬまは

去る年深りしそまは今とても

女  
里曉

都幸し踏ふ路してや雪は舟

抱山亭

を身し深りしそまは今とても

松籟菴  
霜後

平子愛まけまはしれは是年の布

深川居  
鐘堂

とす川くは年ハあはる砥を事

松籟菴  
石明

追夢

まゝのち文もまゝれー堀のあ  
東やまゝー色のをまゝる世は  
雪おもしろい糸のほろりか蒼れ  
古あゝのりゆりれーうり集  
一面ー花障りか雪佛  
そゝあゝうりうりぬ年のほろりか  
まゝれれの些竹は井も泪も

朱英 紀聞 白豕 嘉穀 東羽 以一 圭督

まゝのまゝいも枯ぬ名の参りか  
あゝれれもまゝいも向を雪おのりか  
川年河師走とは誰名なり地  
た日とあゝうりぬゆえや冬牡丹  
おほれれも木やをまゝー雪の朝  
ほろりかまゝいも疏草の如や雪燈籠  
岩の火もあゝまゝーの蒼緑  
まゝれれのまゝもまゝなり 枯れ糸

機官 鶯谷 坐来 文篁 羅文 馬琴 胡月 姑山

善く雪降るやも雪後

山帯

をよめくまらうを此名を

玄々

舞の音とあも新し雪の松

洞胸

をるの便しりして火桶ふ

佳夕

侍はるまのりかをさる佛

九包

初雪も人も後て此方のり

保久仙

えり中りかを年と消ては松の雪

牙琴

七尺の松杖打まら雪は赤

都友

一枝の雪をよめやむらり梅

長眉

息然と時も高居るや山の袖

昔言

此ゆを今もむりや靈祭

吾十

地もえつぬ雪の柳や法は糖

稲平

名うれはあまの松をせむら

條風

師走もや思ふはよ十七

東秀

桂鼠

桂鼠

吾山叟の二圃是をわあは

あたりの雪

あつらふ事くもふ今も積

もや一と雪の雪はあつら

たしつらふ事くもふ深に苔は下

杉やうらうらむ雪はうら

をうらうらむ雪はうらうら

松一やうらうらむ雪はうら

明親

入江

借子

あつらふ事くもふ今も積

もや一と雪の雪はあつら

たしつらふ事くもふ深に苔は下

杉やうらうらむ雪はうら

をうらうらむ雪はうらうら

松一やうらうらむ雪はうら

をうらうらむ雪はうらうら

あつらふ事くもふ今も積

松

秋風

秋香

子徳

蓮車

来賀

来儀

燕雀亭

廣沢連

杖をさくくゆきふたもく雪は

旬竹

ふいまや此寒氣とよむ

楓夕

相生連

あちきややふれつりあ紫竹

月照

座へさくはくゆきとや雪伸

笑牛

羽をゆはくゆきとや雪伸

此友

あやや春とゆきとま

投玉

えぬらるるふくはく

蘭皋

美しき雪をさけさや

文長

ふく雪をさくくゆきと

桃牛

風をさくくゆきと

不及

美しき雪をさくくゆきと

島之

千住連

雪をさくくゆきと

榮督

ちきぬきと拾ふ日向の

三壽

むく雪をさくくゆきと

隣山

世の暮るるまをぬき

山輝

雪をさくくゆきと

吾仙



一葉のつらさをむげよと厚く保つて  
法は橋のたのびたるをまじりて  
けうくをふかき雪の枯芭蕉  
此のハる碑よむと苦むと流  
河も清木曾路ありと松笠  
をまじりて代り茶を墓に  
孤のつらさをかかれとまじりて  
春近くと兼えんとてやまはる

三巴  
存秀  
竹ノ塚  
野加連  
鵠采  
綾波  
十雨  
蘭子  
亀游

兼四の巻をよみとてやまの橋  
汲んとて知るともやまの  
あつり法は橋も石もあつり  
是のつらさを雪にまじり  
我照ふとて人言とて雪の橋  
世を羽とて待とて清く水  
あつりとてまじりて橋は  
泳ありとて雪とてまじり

蒲生連  
文峰  
湖水  
共扇  
語行  
山朝  
和長  
文虹  
仙里





きりぎりすくえんし人のしるふは世にハ

尤右縁

松よとくくわしりし

伊をさうしつるをさるわしりし

河東

しるまやとわしりし

山彦

うきまはるし

はらけし雪しらねるをさるわしりし

三泮

そ人のまもりあや

栢廷

清人のまもりあや

薪水

夕のまはるし

茶舛

一とくはるし

田長

此とくはるし

何文

魄のまはるし

雀子

滑稽吉老隠筆為耕耕罷遙帰長夜城  
憐爾錦囊多少句風流猶入挽歌声

右 悼師竹翁

菅原春樹

追悼

吾の侍格の英魂を慕ふは  
追悼の慕ふは

うしろ髪に涙水もやそ硯 春穢

いそひや六の籠もる 死山に猿 牛吞

友ひくく見送ひくく 暮るる市 平砂

枯木ゆく 暮咲雪水伸く 札 不言

あまの史をみる 雪のふり 紫鳳

清の格一字 唱ん 神佛名 冬映

まゝももゆれよ 一枝に 柳 五陵

ゆきもやゆれよ 戻る 人のぬ 湖十

舟と係り 涙の星や 雨あけり 國香

ほの世乃 物買か人 霧十

心善のまゝを舟のまゝに白のれ  
軸  
立志

雪の梅我の巨縁おふれり  
望たりく今や海走のくく夕  
立和  
菜陽

法橋往譽吾山師竹居士  
天明七丁未歲十二月十七日没 年七十一

年志きつりしを父志  
六の集地を好むを好むを好む  
与  
与

解をしりしを佛の白州  
衣冠りたれしを佛の衣冠  
かきかや海川ちとまぬ  
子向もまを笑し梅梅  
昔もはくちたれしを佛の昔  
むしりく冬もふりしを佛のむ  
志くもくちたれしを佛の志  
記念とたれしを佛の記念  
子芳  
久羅  
義成  
可免  
持女  
梨津  
立溪  
子芳

歸る如の蒼少と深井の法蓮 千々

九郎中んまは平をいほふか 八十

法の橋とて寒あつと云佛分 莊二

ぢく枯り抄の尉んせよ破魔矢賣 少年 鉄之助

ちく世は得安のゆい我の目 鳳山

### 大尾

羽まひし寒さうは舞やふり雪 沾梨

十徳のあぢりりし律たきこ 貫四

一心の深きとて速なる七死

多き雪の吹は残し過客とハ

新中や師升庵なる生涯

東都乃肆杖子珠流ふ

河の名はさ道に棲て昔ハ

富峰を愛しあふ舞切れ

傍よりうらめいさう丹粒ハ賑ハき





千賀の浦より藤原の流るる流るるいふ野田  
のむら石に巻き出で萱原とて道栗くくや  
姉齒の人よふか小思流るる流るるいふ野田  
あり流るる流るる流るるいふ道栗くくや  
く八奥羽の詞友より流るる流るるいふ野田  
のと流るる流るる流るるいふ最上川の流るる  
と流るる流るる流るるいふ流るる流るるいふ  
古栗より流るる流るる流るるいふ越谷の流るる

と流るる流るる流るるいふ流るる流るるいふ  
世と流るる流るる流るるいふ流るる流るるいふ  
と流るる流るる流るるいふ流るる流るるいふ  
車に流るる流るる流るるいふ流るる流るるいふ  
と流るる流るる流るるいふ流るる流るるいふ  
在る流るる流るる流るるいふ流るる流るるいふ  
と流るる流るる流るるいふ流るる流るるいふ  
流るる流るる流るるいふ流るる流るるいふ  
流るる流るる流るるいふ流るる流るるいふ

の孝心も助をりぬる春穢の信宗葉陽  
おきぬぬる風雨の校合の嗣さるる人  
歎すぬるりあまうあり予ハ草稿ばさ  
より和已回友にむいつたの吟ととと免極  
木をけり許を行羈旅のやとととはあて  
して者けりあ志り一志するもたあ今ぬ

天明龍集戌申大呂

日辨上仙

立和

